

令和5（2023）年度
自己点検・評価報告書
（抜粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部

第2章 中・高等部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教職員と生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標と学校運営目標の具現化を図る。校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①令和元（2019）年設定の教育目標「自己を高める豊かな人間性を育成する。」「自立して活躍できる確かな学力を育成する。」「世界で通用する語学力と国際性を育成する。」「持続可能な社会に参画する力を育成する。」を、学校説明会において建学の精神とともに紹介した。 ②各校務委員会が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を数値で測ることで、取り組みを客観的に評価する姿勢を教職員が持っている。各校務委員会では、KPIの見直しを行っている。
今後の課題	【中・高共通】 ①全校集会や学年集会において、生徒に学校教育目標について触れる機会を増やすようにする。 ②これまで実施した生徒アンケートを用いて、KPIの見直しや拡充に取り組む。生徒の実態を反映させられるようなKPIの設定を行う。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校全体で学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標の具現化を図る。校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。

1-②	・中等部・高等部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校教育の重点目標として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）を設定する。 ②学校運営の重点目標として、「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に取り組む」を設定する。

	③ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①「学力向上プラン」「英語・国際理解教育プログラム」「ESD（持続可能な開発のための教育）プログラム」「キャリア教育プログラム」に基づき各事業の実施計画や各学習プログラムを作成し、「21世紀型能力の資質能力を育成する」ことを概ね達成した。また、「心の教育プラン」に基づき各事業の実施計画を立案・実施し、「豊かな人間性を育成する」ことを概ね達成することができた。 ②「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に取り組む」を達成するために、「広報活動」「校内組織」「学校評価」「校務の効率化」「研究研修活動」の各プランに含まれる活動を実施した。 ③ユネスコスクールの認証は引き続き継続となった。
今後の課題	【中・高共通】 ①令和6（2024）年まで継続した教育の重点目標と重点取組分野を、改訂していく。 ②学校運営の重点目標を達成させるための活動内容を見直す。 ③ユネスコスクールとして、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育を発信する。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校教育の重点目標として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）を再設定する。 ②学校運営の重点目標として、「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に取り組む」を再設定する。 ③ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育の取り組みを継続する。

2. 生徒の受け入れ

2-①	・ 中等部・高等部の教育活動について、説明会の実施、学校案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①インターネット出願を導入することにより、多くの受験生を動員する。 ②一度に多くの受験生が集う外部説明会の参加数を増やし、多くの受験生を学校説明会に動員する。 【中等部】 ①横浜市立型と神奈川県立型の適性検査を用意して、模試感覚で受験してもらえよう塾訪問を通じて適性検査型入試の認知度を高める。 【高等部】 ①併願での受験生の歩留まりが読めないため、推薦・専願による受験生を増やせるよう、説明会での内容を中学生の目を惹くものに変える。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組 内容と成果)	【中・高共通】 ①少子化が進み、女子校不人気の影響で受験生の確保が年々難しい状況の中、前年度並みの受験生を確保することができた。 ②以前は中小の個別指導塾からの受験生がほとんどだったが、大手集団指導塾からの受験生を増やすことに成功し、受験生の質の向上が図れた。 【中等部】 ①のべの受験者数が過去最高の200名を超え、実受験者数も150名となり、中高一貫校としての認知度が高まった。 ②2科・4科受験では日能研、適性検査型では中萬学院、臨海セミナーといった大手進学塾からの受験生が増え、受験生の入試得点が大幅に向上した。 【高等部】 ①5年連続合格者数200名越えを達成し、4クラス体制を維持することに成功した。 ②紺別指導塾頼りの動員から、ステップや臨海セミナーなどの大手進学塾の生徒が受験する学校へと受験層のレベルアップを図ることができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①女子校としては最後の募集となるため、受験生の減少が予想される。 ②中・高等部とも受験生は確保できても、少子化による受験の易化による留まり率の低下に対して手を打つ必要がある。 【中等部】 ①適性検査型受験生の歩留まり率を上げる。 ②入試のバリエーションを増やし、併願校としての認知度を高め、従来私立中受験を考えない生徒にも受験をしてもらうようにして受験者の母数を確保する。 【高等部】

	①人気公立高校からの併願者を増やし、歩留まり率を上げる。 ②高校受験は、先手必勝。どの学校も同じ日程で説明会を実施するため、夏休み前に学校説明会の日程を各公立中学校に知らせ、9月以降の学校説明会の申し込みを早期させ、動員数を上げる。
【中等部】 資料	【資料2-1】 学校説明会等参加者数 【資料2-2】 学校説明会等参加者数・出願者数 【資料2-3】 進学相談会面談者数 【資料2-4】 塾対象学校説明会参加塾数 【資料2-5】 学外での募集活動 【資料2-6】 学校案内送付数 【資料2-7】 塾訪問 【資料2-8】 ホームページアクセス数
【高等部】 資料	【資料2-1】 学校説明会等参加者数 【資料2-2】 学校説明会等参加者数・出願者数 【資料2-3】 進学相談会面談者数 【資料2-4】 塾対象学校説明会参加塾数 【資料2-5】 学外での募集活動 【資料2-6】 学校案内送付数 【資料2-7】 塾訪問 【資料2-8】 ホームページアクセス数
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①令和8（2026）年からの共学化を神奈川全県に周知させ、今まで女子校を敬遠していた受験生を獲得する。 ②他の学校にない本校ならではの教育活動にフォーカスした広報活動を行う。 【中等部】 ①2科・4科型の受験生向けに日能研模試、適性検査型受験生には公中検模試に試験会場を提供し、本校の恵まれた施設の認知度をあげる。 ②人口が増えている藤沢、川崎、東京方面の説明会に積極的に参加し、本校の駅からのアクセスの良さをアピールすることで広範囲からの受験生を確保する。 【高等部】 ①高校受験はステップと臨海セミナーの寡占状態にあるため、両塾の本校への通学可能エリアのスクールには徹底的に広報活動を行う。

2-②	・入学試験を公正かつ適切に行っているとともに、入学定員及び収容定員に沿って在籍生徒を適切に確保しているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①インターネット出願がスムーズに導入できるように準備をする。 ②思考力を問いながら採点しやすい問題を出題していく。 【中等部】 ①出願の仕方が分かりやすい募集要項を作成する。 【高等部】 ①就学支援金制度や特待生制度の認知を高める。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成

達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①インターネット出願の導入をスムーズに行うことができたため、入試に伴う業務が効率化できた。 ②良質な入試問題が評判となり、大手塾からの入学者を増やすことができた。 【中等部】 ①インターネット出願の導入により、募集要項のページ数が減り、分かりやすさが向上し、経費も削減することができた。 【高等部】 ①説明会に就学支援制度のパンフレットを同封することと、毎回の説明会で学費の負担を軽減する特待生制度をアピールすることで認知度が高まった。
今後の課題	【中・高共通】 ①令和5（2023）年度導入したインターネット出願で指摘された問題点を解決することで、面倒な操作で受験生を逃さないようにする。 【中等部】 ①過去問題の出題の狙いを作問者から説明会を通じて伝える機会が必要である。 ②令和8（2026）年度の募集からプログレスコースがなくなるため、国際教養コースへシフトした募集を行う必要がある。 【高等部】 ①併願者が合格発表をインターネットで確認せず、入試に必要な手続きが取れないことがあったため、この問題を解決する必要がある。
【中等部】資料	【資料2-9】2024年度入試 【資料2-10】入試状況 【資料2-11】入学試験関連スケジュール
【高等部】資料	【資料2-9】2024年度入学試験 【資料2-10】入試状況 【資料2-11】入学試験関連スケジュール
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①より洗練されたインターネット出願のシステムを構築する ②収容定員を確実に満たしながら受験生の学力レベル向上を図る。 【中等部】 ①国際教養コースにフォーカスした説明会を実施し、プログレスコース志望の生徒を国際教養コースへシフトさせる。 ②国際にふさわしい魅力あるイベントを実施する。 【高等部】 ①併願者を減らし、推薦・専願者を増やせるよう、学校の魅力を伝える学校説明会への動員を図るため、公立中学校へのチラシの配布を早期に進める。 ②学力の高い集団指導塾への営業を強化し、成績優秀生を確保する。

2-③	・中等部・高等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ・引き続き中・高等部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。

	・募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・みどり祭等の公開行事はコロナ禍以降、時間や人数の制限を設定し行われていたが、令和5（2023）年度からは制限を設けない形式で行われた。行事の様子は中・高等部のホームページに紹介され、広報の一つとして扱われている。学校説明会についても感染症防止策を取りながらこれまで同様に実施され、来校者の案内等運営補助を行っている。 ・各種問合せに関する電話や窓口対応については、丁寧な対応を心掛け、中・高等部の好感度を上げる様尽力した。 【中等部】 ・令和5（2023）年度から入試の出願方法が受験生の出願しやすいインターネット方式に変更され、変更に伴う各種対応を行った。			
今後の課題	【中・高共通】 ・併設校広報の中心である初等・中等教育統括部長や中・高等部管理者との連携を密にし、中・高等部の募集活動の支援充実に努める。 ・令和8（2026）年度に予定されている中・高等部の男女共学化に向けて準備を行う。			
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ・引き続き中・高等部の募集活動業務支援を行い、広報の充実を図る。 ・募集人員充足に向け、公開行事等の運営支援や電話・窓口での入学希望者対応の充実を図る。			

3. 教育活動

3-①	・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。 ③教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESD（持続可能な開発のための教育）プログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し実施する。 【中等部】 ①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。 【高等部】 ①教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①年間の行事予定と学習の手引きを整合させることにより、学習の量や質を確保でき、計画的に学力向上に取り組むことができた。また、定期的に職員研修や模擬試験分析会をはじめ、管理職や外部有識者による授業見学、教科研修を行い、生徒・保護者からの授業アンケートについても利用することで、指導技術の向上を図ることができた。 ②週休2日間に合わせた年間行事、日課表を編成することができた。 ③英語教育・国際理解教育プログラム、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組んだ。 【中等部】 ①教育課程に基づき遺漏のないよう組織的かつ計画的に教育活動を進めることができた。 【高等部】 ①教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保を行い、実施することができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①学力向上を目指した教科の教育課程の運営・改善に継続的に取り組む。 【中等部】 ①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていく。 【高等部】 ①教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保を行っていく。
【中等部】 資料	【資料3-1】授業時数
【高等部】 資料	【資料3-1】教育課程

2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。 ③教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESD（持続可能な開発のための教育）プログラム」「キャリア教育プログラム」を編成・修正し実施する。 【中等部】 ①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。 【高等部】①教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保を行う。
-----------------	--

3-②	・教育課程の実施に必要な、教科等の年間指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科会を定期的に開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する一層の情報共有を行うことで、教科としての指導体制を確立する。 ②学習の手引きを作成、活用することにより、授業をより一層充実させる。 ③バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業進度の管理を行う。 ④特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳の年間指導計画を作成し、それに基づき、各学年が学習指導案や実施計画を作成する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①教科内での情報共有を適切に行うことができた。 ②シラバスを生徒各自のタブレットに導入し、いつでも活用することができた。 ③教科科目配置バランスを考慮した時間割が作成されるとともに、すべての教員が進度及び時間数の管理を行い、授業を進行することができた。 ④各学年において実施計画が作成され、遺漏なく運営することができた。			
今後の課題	①教科内での情報共有に努め、教科指導を充実させる。 ②シラバスを活用し、授業内容を充実させる。 ③バランスの良い、授業時数の配当を行い、一層の授業内容の工夫等により、授業進度を確保する。 ④各学年の振り返りを実施、次年度に反映させる。			
【中等部】 資料	【資料3-1】 授業時数	【資料3-2】 実授業時数		
	【資料3-3】 教科別教員数と授業時数	【資料3-4】 教員一人当たりの授業時数		
【高等部】 資料	【資料3-1】 教育課程	【資料3-2】 実授業時数		
	【資料3-3】 教科別教員数と授業時数	【資料3-4】 教員一人当たりの授業時数		

2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科会を定期的を開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する情報の共有を行い、教科としての指導体制を一層整備する。 ②学習の手引きを作成し、活用することで授業の充実を目指す。 ③バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業進度の管理を行う。 ④特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間、道徳の年間指導計画を学習指導委員会が作成・修正し、それに基づき、各学年が学習指導案や実施計画を作成する。
-----------------	---

3-③	・生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教務規定と照らし合わせて観点別学習状況の評価を行うとともに、教科会で点検する。 ②成績処理等の効率化を図るため、校務システムを活用する。 ③定期試験問題の適正化を図るために、国語、社会、数学、理科、英語では、定期試験の目標とする平均点を60±5点の達成を50%以上にする。 【中等部】 ①特別な教科道徳や総合的な学習の時間の学習指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有する。 【高等部】 ①現在の取り組みをより充実させるため、各学年の担当者間で情報共有を図る。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①観点別学習状況の評価については、教務規定に則って評価するが、学年末に行われる教科会にて、成績の妥当性を確認している。 ②評価・評定を算出するに際し、教員の誤入力に伴い成績の訂正をすることが生じたため、教科内での相互確認を徹底する。 ③中等部での平均点は、国際教養コースで目標達成が44%で、点数の超過が33%で、不足23%、プログレスコースで目標達成が41%で、点数の超過が4%で、不足が55%であった。中等部での目標達成は平均をとると43%であった。高等部では、国際教養コースで目標達成が36%で、点数の超過が44%で、不足が20%、プログレスコースで目標達成が44%で、点数の超過が13%で、不足が43%であった。高等部での目標達成は平均をとると40%であった。国際教養コースとプログレスコースを比較するとプログレスのほうが目標平均点に満たない割合が高く、試験問題が生徒のレベルよりも難しいことがうかがえる。 【中等部】

	①道徳や総合的な学習の時間における学習指導要録の文章記述などを充実させるために、中等部全体で生徒自身が記入するリフレクションシートと、記入結果を自動的に評価文章に反映できるファイルを作成し、評価の視点を共有した。 【高等部】 ①1つ上の学年に前年度の評価のしかたを提示してもらい、本年度の文章記述による評価に生かした。
今後の課題	【中・高共通】 ①教科内で、観点ごとの評価の規準と基準を考える。 ②教科内で成績の確認を徹底する。 ③定期試験の目標平均点の達成率は例年同様40%前半であった。中等部のプログレスコースでは、試験の平均点が54点以下の割合が2分の1を超えており、授業で学んだこと身に付いていないことがうかがえる。 【中等部】 ①新型コロナウイルス感染症が5類になり、道徳や総合的な学習の時間に関わる学習活動が2類のときより活発になったため、評価項目や内容の修正などを加えることをはじめ、評価システムのブラッシュアップを図ることが必要となる。 【高等部】 ①SDGsの学習として行う鎌倉プロジェクトは、前年度の取り組みが大いに参考になるため、これまで以上に情報交換を図っていく。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教務規定と照らし合わせて観点別学習状況の評価を行い、その評価について教科会で点検する。 ②算出された評定について、教科会での点検と教務部の成績システム担当とでのダブルチェックを行う。 ③教務規定で定められた、国語、社会、数学、理科、英語の定期試験の平均点を60±5点の範囲内にするという目標の達成を、50%以上にする。 【中等部】 ①特別な教科道徳や総合的な学習の時間の評価の方法を充実させる。 【高等部】 ①総合的な探究の時間の評価のしかたを、内容に応じて学年内でシステム化する。

3-④	・学習指導要領や学則にのっとり、中等部・高等部全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が適切に行われているか。また、生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた指導が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に指導が改善されているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①模擬試験等を利用して生徒の学力を把握し、学力向上のために指導の工夫・改善に取り組む。 ②入力習慣の更なる徹底。時間プロデュース力の育成。 ③早い段階で新体力テストを実施し、前年度と比較することで個々に課題を持って授業に臨ませる。 ④生徒が英検を受ける意義を理解し、目標意識を高めていくために、次年度も英語科で年度初めに英検についての説明会を設定する。 ⑤各学期、生徒による授業評価を実施し、指導の工夫を共有し改善に取り組む。 【中等部】 ①単語コンテストを継続して開催し、定番の取り組みとして生徒に周知徹底を図ることでより一層の学習意欲の向上を図る。 【高等部】 ①英検教材を用いた指導法のノウハウを蓄積し、より洗練された指導を目指す。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①教員が模擬試験の過去問と解くなどし、成績に対する意識が高まった。模擬試験の結果を意識するとともに、授業での工夫・改善がみられた。 ②学習習慣の定着のため、学力向上委員会と進路指導委員会主導のもと、担任が生徒に日々の学習記録を入力させ、週ごとに集計を共有した。日常の学習への取り組みについて面談で話し合った。面談は全学年最低3回、更に学年の実態や個別の必要に応じて適宜実施できた。 ③新体力テストの実施・自己評価を行い、苦手を把握して目標を持って授業に臨ませることができた。 ④英検の意義を説明するための集まりを実施する代わりに、英語科の授業担当が各クラスで個別に説明を行った。生徒の受験状況からみて、生徒に英検を受験する意識が前年度よりも浸透していると考えられる。 【中等部】 ①単語コンテストを実施することで、生徒の自主的な学習を促すことができた。 【高等部】 ①英検教材を用いた指導について、教材研究の積み重ねにより前年度よりも洗練された指導をすることができた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①中等部は、C・DからBへと成績を向上させ、B以上の人数を増加させる。高等			

	部は、とくに国際教養コースにおいて全統模試で偏差値50以上の人数を増加させる。そのための工夫・改善方法を明確にする。 ②前年度よりも学習記録の入力習慣が定着したため、今後は学習自体の目的意識を啓発していく。 ③テスト項目の8観点においてバランスの良い運動技能が身に付くよう、多くの単元を授業に取り入れる。 ④生徒の英検受験に対する意識をより高め、受験を促すためにわかりやすい説明を心掛ける。 【中等部】 ①単語コンテストを引き続き実施し、事前指導をより充実させていく。 【高等部】 ①英検の内容改変もあったため、教材研究を怠らず最新の内容を指導に反映していく。
【中等部】 資料	【資料3-5】 使用教科書 【資料3-6】 実用英語技能検定 【資料3-7】 日本漢字能力検定 【資料3-8】 実用数学技能検定
【高等部】 資料	【資料3-5】 使用教科書 【資料3-6】 実用英語技能検定 【資料3-7】 日本漢字能力検定 【資料3-8】 実用数学技能検定
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①模擬試験等の利用により学力を把握し、学力向上のために指導の工夫・改善に取り組む。 ②入力習慣の更なる徹底。時間プロデュース力の育成。 ③新体力テストの実施により、前年度と比較することで個々に課題を持って授業に臨ませる。 ④英検の受験に対する生徒の意識を高めるため、わかりやすい説明を心掛け、受験率、英検取得率の向上に務める。 ⑤各学期、生徒による授業評価を実施し、指導の工夫を共有し改善に取り組む。 【中等部】 ①中等部全体対象の単語コンテストの実施をするとともに、生徒が前向きに取り組めるよう、事前指導にも力を入れる。 【高等部】 ①英検の改変に合わせた教材研究を怠らず、生徒の英検取得率の向上を目指す。

3-⑤	・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。 ②英語指導法の研修を継続し、より効果的な指導法の探求を行い、指導法の確立を目指す。 ③外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を

	実施する。 ④英語・国際理解教育プログラムでの体験学習を実施する。 ⑤ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムにて参加型学習、体験型学習、課題解決学習を実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①学習指導委員会実施の「授業公開」により、知識・技能の定着を目指し、アクティブラーニング型授業に取り組む場面が増加した。 ②英語指導法の研修については、外部から講師を招いて指導を仰ぐとともに、研究授業の内容の検討などを通じて、英語指導法をより洗練させることができた。 ③立居振舞講座は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意しながら、1学期、2学期の2回、安全に開催することができた。「Classi」を使用したアンケートでは回答した生徒のうち1学期98%、2学期99%が「役に立った」と回答した。コミュニケーション講座、エンカウンター講座を各2回、外部講師により実施した。 ③英語集中研修は夏期に3日間実施することができた。高等部3年生を除く中・高等部全生徒が参加し、ネイティブスピーカーの生の英語に触れることで語学力を高める貴重な機会となった。 ④ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムは、ディスカッション等が十分に行えた。
今後の課題	【中・高共通】 ①アクティブラーニング型授業に取り組む場を増やす。 ②英語指導法の研修について、より充実した内容となるよう実施の方法や時期などを検討する必要がある。 ③立居振舞講座など、外部講師が来校したり生徒が校外で活動したりする場合は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意しながら、生徒が安全に参加できる環境を整える。コミュニケーション講座とエンカウンター講座は、教員ができる限り参加することで、運営方法、実施の意義について理解を深めるようにする。また、教員の研修の実施や、エンカウンター講座については、教員による実施も検討する。 ③英語集中研修は、3日間午前・午後実施と生徒の負担も大きいため、よりコンパクトにするなど、参加者を更に絞ることで生徒のニーズによりいっそうかなう形での実施をする必要がある。 ④ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムで生徒が学んだ内容を、日常場面で意識できているかどうかのチェックが正しくできるような検討をする。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員がアクティブラーニング型の授業に取り組む。

	②英語指導法の研修の実施方法や実施時期を検討し、より充実した内容とする。 ③外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を実施する。 ④ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムにて参加型学習、体験型学習、課題解決学習をこれまでどおり実施する。
--	---

3-⑥	・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業に取り組む。 ① 授業における「説明」「指示」「発問」「評価」などの言語コミュニケーション・スキルを向上させる。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①電子黒板と iPad の活用が十分できるようになった。「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へ定着してきた。 ②公開授業期間中に各教員が相互の授業を見学し、レポートで改善点を指摘しあうなど、言語コミュニケーション・スキルを向上させる取組を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ①生徒の学力向上を目指す。授業公開を行うことで授業力向上に取り組む。 ②自己研鑽により、授業者として必要な指導スキルを各自が向上させる。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業に取り組む。 ②授業における「説明」「指示」「発問」「評価」などの言語コミュニケーション・スキルを向上させる。

3-⑦	・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①土曜講習は発展的な学習として位置づけ、国際教養コースは必修、プログレスコースは希望制として実施する。

	②夏期講習と冬期講習を実施する。 ③学力不振の生徒や希望した生徒に対して適宜、個別指導を実施する。 【中等部】 ①夏期講習と冬期講習は、国際教養コースとプログレスコースいずれも必修とする。 【高等部】 ①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①発展的な学習として、国際教養コースの全生徒は毎月開催される土曜講習に参加した。プログレスコースの希望する生徒も参加した。 ②夏期講習、冬期講習については、学力や進路に適した様々な種類の講座を設定した。 ③夏期講習と冬期講習を実施した。 ④学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施、または学力向上につながる学習をアドバイスした。 【中等部】 ①夏期講習と冬期講習について、国際教養コース、プログレスコースいずれも必修とした。 【高等部】 ①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ①土曜講習の授業内容について、取り組み内容を再検討する。 ②個別フォローについて、教科で取り組める体制を目指す。 【中等部】 ①土曜講習はプログレスコースにも積極的な参加を促す。 【高等部】 ①備校主催の夏期講習はプログレスコースにも積極的な参加を促す。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①土曜講習は発展的な学習として位置づける。国際教養コースは必修、プログレスコースは希望制として実施する。 ②夏期講習と冬期講習を実施する。 ③学力不振の生徒や希望した生徒に対して適宜、個別指導を実施する。 【中等部】 ①夏期講習と冬期講習は、国際教養コースとプログレスコースいずれも必修とする。 【高等部】 ① 予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。

3-⑧	・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。 ②英検など他の英語の授業で学習した内容と英会話の授業とを関連付け、英会話の授業がより一層実践的な練習の場となる方法を検討する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①理科助手がすべての実験・観察の時間に原則として加わり、安全に配慮しつつ、実験・観察等の授業を行うことができた。 ②ネイティブが中心に授業を進めていく形を取り、授業担当者が生徒の理解を把握し、英検関係など他の英語の授業で学習した内容と関連付けた授業を行うことができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①引き続き現状を維持した取り組みを行う。 ②チーム・ティーチングで使用する教材の効果的な扱い方、英検などの関連付けを教科会で研究する。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①理科の実験・観察では、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。 ②英検など他の英語の授業で学習した内容と英会話の授業とを関連付け、英会話の授業がより一層実践的な練習の場となる方法を検討する。

3-⑨	・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①担当者会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。 ②動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。 ③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。 ④臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討

	する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①ICTルーム、情報処理室などにおける情報機器の管理・運用に組織的に取り組んだ。 ②電子黒板やタブレット型端末のマルチメディア機能を活用することによって、画像や動画、音声等で感覚に訴え、興味・関心や意欲を高める授業が行えた。 ③電子黒板やタブレット型端末を利用することで、抽象的な概念などを可視化し、理解の促進につなげることができた。 ④臨時休業に備えて、タブレット型端末にアプリの準備をした。
今後の課題	【中・高共通】 ①担当者会で情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。 ②動画コンテンツの精査を行い、引き続き検討していく。 ③全教員がICT機器を効果的に活用ができるように検討していく。 ④臨時休業に備えて検討する。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①担当者会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。 ②動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。 ③各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。 ④臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討する。

3-⑩	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①新1年生に、図書館オリエンテーションと図書館ガイダンスを行う。 ②教科以外の図書館利用を促す。 【中等部】 ①定期的に図書館を利用するような活動を行う。 ②教科などの図書館授業を通して、多くの分野の図書館資料に触れさせる機会を作る。 【高等部】 ①図書館の利用機会を増やす努力をする。 ②進路や受験に役立つ資料があることを周知し、活用を促す。

【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ①新1年生に、図書館オリエンテーションを行った。高等部1年生には、全体にオリエンテーションと図書館ガイダンスを一緒に行った。中等部1年生には全体でオリエンテーションを行い、国語の授業を1時間もらい図書館ガイダンスを行った。図書館OPACをiPadに登録した。高等部1年生には、実際にひとり1冊新書を手元に配り、新書の構造や奥付の見方などを説明した。 ②夏休みの宿題に国語科と協力して「新潮文庫『ワタシの一行大賞』」へ応募作品を書かせ、応募した。秋の読書週間に、「Classi」で図書館クイズを1週間ほど投稿して、図書館利用を促した。冬休みの宿題の「伊藤園 おーいお茶」について、国語科と協力して俳句の作り方などを「Classi」に投稿した。長期休暇の貸出冊数を増やし、図書館利用を促した。 【中等部】 ①購入図書の新着案内など、「Classi」への投稿や、掲示を通して図書館の利用を促した。購入図書に、生徒の希望図書を積極的に取り入れ、貸出数の増加を図った。 ②主に国語と書写の授業で、各学年の利用があった。長期休暇の前などに、国語の授業を利用して、借りる本を選ぶ時間を作った。その際に、読み物以外の分野の本を紹介した。 【高等部】 ①毎月新着新書を掲示で案内をした。希望図書の新着案内を「Classi」へ投稿・掲示した。 ②毎週、天声人語のコピーを、ほぼ毎日2紙の社説をコピーしてクラス担任に配付した。
今後の課題	【中・高共通】 ①勉強が忙しくなってくると図書館の個人利用が減少する。2・3学期の図書館利用の促進を工夫する。ビブリア（読書記録アプリ）の導入をする。 ②図書館OPACのiPadへの登録を各人に確実に行わせる。 【中等部】 ①希望図書を積極的に取り入れる。 ②授業の利用への協力をする。 【高等部】 ①学年の利用などを働きかける。 ②2・3年生へ図書館OPACの利用を働きかける。新書を薦める。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①新1年生に、図書館オリエンテーションと図書館ガイダンスを行う。 ②教科以外の図書館利用を促す。 【中等部】 ①図書館を利用するような活動を行う。

	②教科などの図書館授業を通して、読み物以外の本に触れさせる機会を作る。 【高等部】 ①図書館の利用機会を増やす努力をする。
--	--

3-⑪	・学校行事、委員会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。		
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校行事や委員会活動におけるICT活用と情報共有による、組織的な運営の効率化を図る。 ②学校行事や委員会活動においてリーダーを中心とした組織的な運営を進め、生徒のアイデアや積極的な姿勢を生かした活動を実践する。 ③生徒の安全や新型コロナウイルス感染症予防対策について適切な配慮を行いながら、生徒の成長を支える活動を継続する。		
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①体育祭やみどり祭の準備、委員会活動において、担当教諭間や生徒委員どうしの連絡、情報やデータの共有について、ICTの活用が進んだ。 ②各種学校行事や委員会活動は委員長を中心として計画的に実施された。また、挨拶運動や、地域と連携した校外ボランティア活動への参加、校門付近の清掃などを行うことができた。 ③感染症予防対策は定着し、学校行事や委員会活動においても適切に実施されている。体育祭やみどり祭では、適切な対策を行ったうえで特別な入場制限は行わず、生徒の活動や成長を保護者等に見ていただくことができた。		
今後の課題	【中・高共通】 ①学校行事や委員会活動における作業の効率化を目指し、ICTの活用を今後も積極的に進める。良い方法は全体で共有し、活用の幅を広げる。 ②委員長を中心とした行事や委員会の活動は、担当する教員の指導のもと順調に運営できている。生徒のアイデアと積極的な姿勢を尊重し、生徒主体の活動を一層進めていけると良い。 ③感染症予防対策の緩和される中、校内の行事や活動においても適切な対応が求められる。必要な対応を行いながら生徒の成長を支える活動を継続する。		
【中等部】 資料	【資料3-9】 学校行事	【資料3-10】 表彰	【資料3-11】 委員会
【高等部】 資料	【資料3-9】 学校行事	【資料3-10】 表彰	【資料3-11】 委員会
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校行事や委員会活動におけるICT活用と情報共有による、組織的な運営の効		

	率化を図る。 ②学校行事や委員会活動においてリーダーを中心とした組織的な運営を進め、生徒のアイデアや積極的な姿勢を生じた活動を実践する。 ③生徒の安全や感染予防対策について適切な配慮を行いながら、生徒の成長を支える活動を継続する。
--	--

3-⑫	・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「事故防止のための安全対策」の確認を行い、種目の特性に合った事故の予防、事故発生時の対策を現状に合わせて継続する。 ②「部活動の在り方に関する方針」をもとに各部の部活動方針を状況に合わせて修正し、活動の時間、場所、内容、安全等について適切な管理を行う。 ③教育活動の一環として、部活動を通した生徒の思考力・実践力・社会性等の育成に取り組む。 ④安全で充実した部活動の運用を目指し、顧問どうしの連携を進める。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①年度初めに「事故防止のための安全対策」の確認と見直しを行った。 ②年度初めに「部活動方針」の確認と見直しを行い、活動の特性や活動内容に合わせた安全管理を徹底した。 ③各部顧問やコーチの監督のもと、適切に指導が行われた。 ④諸会議や休日出勤の振替等で顧問の教員が不在の場合には、副顧問及び近くで活動する部の顧問による安全管理が行われている部が多い。			
今後の課題	【中・高共通】 ①今後も状況の変化に合わせて、安全対策や感染症予防対策に取り組む。 ②部活動方針の確認と見直しを継続するとともに、社会情勢に伴う新しい対応についても適正かつ速やかに対応する。 ③各部顧問の適正な指導により、今後も生徒の心身の成長を支える。 ④本館側の施設を使用する際の安全対策や顧問不在時の対応について、適切な対応ができる体制を整える。			
【中等部】 資料	【資料3-12】 校友会（部活動）入部者数 【資料3-13】 校友会（部活動）部別所属人数 【資料3-14】 校友会（部活動）活動結果			
【高等部】 資料	【資料3-12】 校友会（部活動）入部者数 【資料3-13】 校友会（部活動）部別所属人数			

	【資料3-14】校友会（部活動）活動結果
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「事故防止のための安全対策」の確認を行い、種目の特性に合った事故の予防、事故発生時の対策を現状に合わせて継続する。 ②「部活動の在り方に関する方針」をもとに各部の部活動方針を状況に合わせて修正し、活動の時間、場所、内容、安全等について適切な管理を行う。 ③教育活動の一環として、部活動を通した生徒の思考力・実践力・社会性等の育成に取り組む。 ④安全で充実した部活動の運用を目指し、顧問どうしの連携を進める。

3-⑬	・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。また、小中連携、中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①併設校相互の連携を図るために定期的に三部長会を開催する。 ②併設校の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日開催し、園児・児童も楽しめる催し物を企画する。 ③初等部を対象とした学校説明会を計画的に開催する。 ④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設定する。 ⑤中高連携を進め、校友会の部活動や委員会活動、みどり祭（文化祭）や体育祭などの各種行事、講話等は中・高等部合同で実施する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①毎月、三部長会を開催し、連携を図ることができた。 ②岩瀬キャンパス内のすべての併設校が、みどり祭（学園祭）を同日に開催することができた。併設校の園児・児童も楽しめる催し物も実施された。 ③初等部には学校説明会に参加してもらえるよう、募集要項などを配布した。個別相談では内部進学に向けての対応を直接保護者に説明した。公開模試を本校で実施し保護者説明会を実施した。 ⑤部活動や委員会活動、各種学校行事等において、中等部と高等部は連携した活動が実施された。 【中等部】 ④中等部2年生の技術・家庭の授業でクラスごとに幼稚部を訪問し、幼児とのふれあい体験実習を実施することができた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①併設校相互の情報共有を引き続き継続する。			

	②可能な範囲で併設校との交流を図る企画を検討する。 ③初等部の多くの保護者に学校説明会に参加してもらう。 ④中等部2年生の技術・家庭の授業で、安全・安心な「ふれあい体験実習」を実施する。 ⑤今後も部活動や委員会活動、学校行事等における中高連携を継続し、良好な関係性を維持する。
【中等部】 資料	【資料3-15】 併設校との連携
【高等部】 資料	【資料3-15】 併設校との連携
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①併設校の連携を図るために、みどり祭を同日開催し、園児・児童も楽しめる催し物を企画する。 ②併設校と、みどり祭を同日開催し、園児・児童も楽しめる催し物を企画する。 ③初等部を対象とした学校説明会を計画的に開催する。 ④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設定する。

3-⑭	・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。 ②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。 【高等部】 ①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し送りを通して円滑な接続を図る。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①各種実習において、大学と連携し実施することができた。 ②みどり祭（文化祭）において、大学学友会と連携した企画が実施できた。 【高等部】 ①高大連携講座に高等部3年生は熱心に取り組んでいた。進学決定者の申し送りを通して円滑な接続が図れた。			
今後の課題	【中・高共通】			

	①引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、円滑に各種実習が実施できるよう大学と連携する。 ②可能な範囲で交流を図る企画の実施を検討する。 【高等部】 ①高大連携講座、円滑な高大接続を継続していく。
【中等部】 資料	【資料3-15】併設校との連携
【高等部】 資料	【資料3-15】併設校との連携
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。 ②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。 【高等部】 ①高大連携講座のセメスター参加や希望者の参加、図書館利用等の計画を立て、できることから実施する。

4. 生徒指導

4-①	・ 中等部・高等部全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。 ・ 自主的・自律的に行動でき、豊かな人間関係を構築でき、社会の一員としての意識を身に付けた生徒を育成するための指導を行っているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ① 計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ② 各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また迅速かつ足並みをそろえた対応が必要な場合には、連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達するとともに、朝の職員打ち合わせでの連絡も併用する。 ③ 計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を実施する。 ④ 自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。 ⑤ 感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。 ⑥ 社会性を育てるために、日直活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦ 「学校いじめ防止基本方針」を毎年度見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ① 生徒指導計画を作成して「生徒指導ハンドブック」に明記し、発行した。 ② 職員会議で生徒の情報の共有を行った。マナー指導等、共通認識が必要な内容については、朝の打ち合わせ、職員会議だけではなく「Classi」を用いた連絡・情報共有を行った。 ③ 「心の教育プラン」を策定し、実施した。感染症拡大防止に配慮しながら、中等部で「合唱コンクール」を実施することができたが、「入学座禅」は実施できなかった。 ④ オリエンテーションで修養の鐘の意義と方法を説明し、率先垂範で日頃の指導を行った。 ⑤ 芸術鑑賞教室は感染症拡大防止に配慮しながら、校外の劇場で実施した。「Classi」を使用したアンケートで、回答した生徒のうち約91%が「良かった」と回答した。 ⑥ 日直活動は全学年で担任が指導した。礼儀・挨拶指導は、各学級での指導以外に、朝の挨拶指導を生徒指導委員会が中心となりほぼ毎日実施した。立居振舞講座は、感染症拡大防止に配慮しながら、年2回実施した。 ⑦ 「学校いじめ防止基本方針」は、特に変更を要する点はなかった。			
今後の課題	【中・高共通】			

	①情報共有のため「生徒指導ハンドブック」を読み合わせる機会を設ける。生徒指導提要の改訂、共学化にあわせて、内容の再検討を継続する。 ②「Classi」の情報を精選するとともに、特に大切なものは口頭の連絡を朝の打ち合わせで行う。また、共有した情報の取扱いに十分な注意をはらう。 ③中止となった行事は、実施の必要性を含め再検討する。 ④修養の鐘の指導は、日常的に意義を確認する指導が求められる。 ⑤芸術鑑賞教室は、劇場の改修等で再検討が必要となるが、校外の劇場を中心に検討する。 ⑥日直活動の指導は、学年団で情報を共有することで、クラスで大きな差が出ないようにする。立居振舞講座は、内容を精査しつつ実施する。 ⑦「学校いじめ防止基本方針」の読み合わせをする機会を作り、情報共有を十分ににする。
【中等部】 資料	【資料4-1】生徒指導計画
【高等部】 資料	【資料4-1】生徒指導計画
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。 ②各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また迅速かつ足並みをそろえた対応が必要な場合には、連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達するとともに、朝の職員打ち合わせでの連絡も併用する。 ③計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を実施する。 ④自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。 ⑤感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。 ⑥社会性を育てるために、日直活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。 ⑦「学校いじめ防止基本方針」を毎年度見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。

4-②	・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているとともに、スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教育相談委員会を定期開催する。 ②学校生活アンケートをもとに、二者面談の実施について各学年に提案を行う。面談の内容、結果については、教育相談委員会で情報を共有する。 ③SHR（ショートホームルーム）などで実施するエンカウンタープログラムを定期的に行う。 【高等部】

	①模試分析会の最後に、分析会の内容を受けたキャリア・カウンセリングの演習を行えるようにする。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①年間8回、教育相談委員会を実施した。情報の共有は教育相談委員会と運営委員会までとした。 ②学校生活アンケートの結果をもとに、二者面談実施について提案を行った。アンケート内容の情報共有は、委員会の開催を待たずに各学年と情報共有を行った。 【中等部】 ③エンカウンタープログラムの指導案(台詞付き)を作成し、担任や上級教育カウンセラーの有資格教員が実施した。 【高等部】 ①令和5(2023)年度は、模試分析会直後に職員会議が入り、実施できなかった。
今後の課題	【中・高共通】 ①教育相談委員会を定期開催する。 ②学校生活アンケートをもとにした二者面談の実施案を、各学年に提供する。面談内容は、教育相談委員会で共有する。 【中等部】 ③現在は、自己理解などを目的としたジェネリックエンカウンターを行っているが、クラスの課題やニーズに対応した、スペシフィックエンカウターの実施も必要と考えられる。 【高等部】 ①キャリア・カウンセリングの演習の必要性を教員に周知し、時間の確保ができるようにする必要がある。
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①教育相談委員会を定期開催する。 ②学校生活アンケートをもとに、二者面談の実施について各学年に提案を行う。 【中等部】 ③学年や担任からクラスの課題やニーズをインタビューし、スペシフィックエンカウターのプログラムも作成し、実施していきたい。 【高等部】 ①管理職と相談して、職員会議の中にキャリア・カウンセリングの演習の時間を確保したい。

【中・高等部】 4－③	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ②日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①薬物乱用防止は、保健の授業で指導を行った。 ②朝のSHRで健康管理表を使用した健康観察（体温確認など）を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ①感染症が生じた場合、すぐに対応できるようにしておく。
【中等部】 資料	【資料4-2】 学校保健計画 【資料4-3】 保健室利用件数 【資料4-4】 保健室学年別利用件数 【資料4-5】 保健室月別利用件数
【高等部】 資料	【資料4-2】 学校保健計画 【資料4-3】 保健室利用件数 【資料4-4】 保健室学年別利用件数 【資料4-5】 保健室月別利用件数
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を実施する。 ②日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のため、健康診断を適切に実施する。

【保健センター】 4－③	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①国の方針をもとに正しい知識が得られるよう指導に当たり、集団生活に対する不安が起らないような指導を行っていく。また、各教科と連携を取り、対応に当たることでより充実した保健教育を実施する。 ②現在実施している保健講座の内容を精査し、発達段階だけでなく、学年事情に適した内容での実施を目指す。また熱中症対策について、体育科や生徒指導委員会と連携をとり、予防に努める。 ③保健室で対応に当たる相談について、学級、校友会、相談内容の区分けなどを行い、関係職員と共有することで、より効果的に対応できるよう努める。 ④教職員の心肺蘇生法講習会について、消防署と連携した実施を目指す。実技実

	習に当たる時間や講師数を多く確保することにより、技術力の向上に努める。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①国の方針をもとに、職員と生徒、家庭が共通理解できるよう日常生活で変わること・変わらないことを明記した臨時の保健だよりを作成した。 ②保健体育科と連携し、現在実施している保健講座の内容を検討した。また夏季、生徒が自主的に予防行動をとれるよう熱中症指数の掲示を行った。屋外に日影がないため、夏季部活動においてテントを利用する、水を定期的にまくななどの対応をしてもらうこととした。その結果、熱中症での利用が前年度より減少した。 ③保健室に相談に来た生徒について、必要時はカウンセラーにつなぐ対応をした。その後、担任や顧問、教育相談委員会などとも情報共有し、支援に当たることができた。 ④教職員の心肺蘇生法講習会について、消防職員による実施を目指したが、日程の調整がつかず、保健センター職員が実施した。短い時間での実施となったが、参加した職員が集中し、実技を実施したことで、前年度と比べ技術が向上した。			
今後の課題	【中・高共通】 ①コロナ渦で習慣付いた感染症予防対策の知識を風化させることなく、継続できるよう働きかけていく必要がある。 ②保健講座について、実施学年を再検討し、積み重ねの学習を実施することで知識の定着を目指したい。 ③男子校、共学校では男子生徒からの相談も多いと聞く。令和8（2026）年からの共学化に向け、適切な対応について学んでいく必要がある。			
【中等部】 資料	【資料4-2】 学校保健計画		【資料4-3】 保健室利用件数	
	【資料4-4】 保健室学年別利用件数		【資料4-5】 保健室月別利用件数	
【高等部】 資料	【資料4-2】 学校保健計画		【資料4-3】 保健室利用件数	
	【資料4-4】 保健室学年別利用件数		【資料4-5】 保健室月別利用件数	
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①感染症対策について、特に新入生に重点を置き実施していく必要がある。新入生オリエンテーションや保健講座、保健だよりで確認をし、併せて保健室利用時の個別指導も実施する。 ②「境界（バウンダリー）と同意」を繰り返し学べるよう、共学も視野に入れた包括的性教育の立案を図る。 ③共学後の保健室経営上の課題を見つけ出し、1つ1つの課題についての対応策を検討し、準備を進めていきたい。			

4-④	・ 法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているとともに、学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。また、校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。 ②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策部分について更新し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に運用する。 ③各学期1回、年間3回の校内安全点検を実施する。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。 ⑤防災訓練の運営及び防災教育指導を行う。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①学校安全計画を作成し、「生徒指導ハンドブック」に掲載することで教職員に共有、適切に運用することができた。 ②「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員及び全校生徒に発行し、適切に運用した。 ③年間3回、各学期の始めに校内安全点検を実施した。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を1学期始業式から適切に運用した。 ⑤避難訓練を1回、1学期に実施した。			
今後の課題	【中・高共通】 ①「生徒指導ハンドブック」の読み合わせをする機会を設け、学校安全計画について情報共有を十分に行う。 ②「防災・防犯マニュアル」で、防犯対策の部分について時代に即したものに修正する。 ③必要な個所の点検で済むようにする。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）のスムーズな運用開始のため、業者と密接な連携をとる。 ⑤新年度の早い時期に避難訓練を実施する。			
【中等部】 資料	【資料4-6】学校安全計画 【資料4-7】危機管理マニュアル			
【高等部】 資料	【資料4-6】学校安全計画 【資料4-7】危機管理マニュアル			
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。 ②「防災・防犯マニュアル」を作成して教職員及び全校生徒で共有し、適切に運用する。			

	③各学期1回、年間3回の校内安全点検を実施する。 ④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。 ⑤防災訓練の運営及び防災教育指導を行う。
--	--

4－⑤	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎単独で引き続き防災訓練を実施する。 ・中・高等部内での自主的な安全点検について、今後も継続して実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ・中・高等部での防災訓練を1回実施し、防災訓練内で消火器取扱い訓練も併せて行った。訓練の際、大船消防署隊員が立ち会いを行わない方針が鎌倉市から出されていたため、隊員の立会いのない自主訓練の形式で実施した。 ・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行し、生徒や保護者に対して防災に関する基本行動や心構え等有事に対する周知を行った。 ・備蓄食料の配付を通じて、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。 ・中・高等部での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）が法令上不要となったが、自主的な安全点検を引き続き行っている。
今後の課題	【中・高共通】 ・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、施設管理課、管轄消防署等と相談を行いながら、あらゆる有事に対応できる様な活動を今後も継続する。 ・中・高等部校舎が移転し、幼稚部や初等部と防災管理上の区分が別になったが、岩瀬キャンパス全体として幼稚部、初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。
【中等部】 資料	【資料4-8】避難訓練実施日
【高等部】 資料	【資料4-8】避難訓練実施日
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ・有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎での防災訓練を引き続き実施する。 ・中・高等部内での自主的な安全点検について、今後も継続して実施する。

5. キャリア教育（進路指導）

5-①	・ 中等部・高等部全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。 ・ 生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 - また、職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ① キャリア講演会は、校種別の実施を検討する。また、その際の人選なども検討する。 ② キャリアガイダンスの実施効果の継続性を検証する。キャリア意識調査の学習に関する項目の尺度得点を活用して、継続性を確認する。また、キャリアガイダンスクラスワイドのキャリアガイダンスへの参加を促す。 【高等部】 ① 職業体験やインターシップの受け入れ準備を行う。 ② 参加した生徒のインタビュー動画を作成し、アーカイブとして、生徒がいつでもアクセスできる環境を検討する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ① キャリア講演会の校種別実施については、人選の検討は始めているが、場所の確保の問題など、解決すべき課題を明確化する段階で止まっている。 ② クラスワイドのキャリアガイダンスは、担任への情報提供という形での実施にとどまり、キャリア教育担当者会では、学年ワイドの実施である。 【高等部】 ① 神奈川県インターンシップを受け入れたり、保育所や幼稚園に職業体験を依頼したりして、実施することができた。 ② インタビュー動画を作成することはできたが、生徒がいつでもアクセスできる環境整備をするには至らなかった。
今後の課題	【中・高共通】 ① 校種別のキャリア講演会に向けて、時間の確保や場所の確保についてなど、明確となった課題を解決する。 【中等部】 ① 道徳の時間や特別活動の時間内に、クラスワイドのキャリアガイダンスの時間を確保できるように、学年と調整する。 【高等部】 ① 神奈川県インターンシップや保育所、幼稚園体験だけでなく、各種職業の体験イベントの情報を収集し、提供する。
【中等部】 資料	【資料5-1】進路指導・キャリア教育

【高等部】 資料	【資料5-1】進路指導・キャリア教育
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①校種別のキャリア講演会に向けて、時間の確保や場所の確保についてなど、明確となった課題を各分掌や学年と調整して解決する。 【中等部】 ①道徳の時間や特別活動の時間内に、クラスワイドのキャリアガイダンスの時間を確保できるように、学年との調整を行う。 【高等部】 ①神奈川県インターンシップや保育所、幼稚園体験だけでなく、各種職業の体験イベントの情報を収集し、「Classi」を利用して適宜、生徒に情報提供を行う。特に、看護体験などの医療系の職業の体験希望が多いため、情報収集に努める。

5-②	・生徒一人ひとりの理解を深めるために必要な資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているとともに、進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。また、キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学習時間記録を活用し、生徒の学習習慣の定着を図る。模擬試験分析会を活用し、教員の学習に対する意識を高め、生徒への指導につなげていく。 ②生徒が目標を持って学習できるよう進路ガイダンスを工夫し、各学年における進路に関する集会などの開催を活発化させていく。 【中等部】 ①中等部低学年での学習習慣を定着させ、成績を向上させる。 ②進路ガイダンス・学習ガイダンスの効果を高める。 【高等部】 ①高等部1年生の学習習慣の定着を図り、成績を向上させる ②進路ガイダンスなどを通じて、生徒の大学受験に対する意識を高める。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①生徒の学習時間の入力には担任教員の尽力で達成し、学習習慣が定着した生徒を確認することができるようになった。模擬試験に対する教員・生徒の意識は高まった。 ②進路ガイダンスで生徒の学習意識は高まり、学習時間が一定期間増加した。また、学年での進路集会も実施された。 【中等部】 ①特に中等部1・2年は学習時間目標達成者が多く、学習習慣が定着した生徒も多くなった。			

	②進路ガイダンス・学習ガイダンス後は一定期間、学習時間が増えた。 【高等部】 ①国際教養コースでは学習時間の多い生徒が増えた。 ②高等部の担任教員と連携を取りながら、生徒の受験への取り組み、意識付けができてきた。
今後の課題	【中・高共通】 ①学習習慣の定着を学力の向上につなげていくため、今後も学習記録を確認し、生徒が主体的に学ぶよう取り組んでいく。模試分析会では最新の受験情報、教科指導等を含め、学力向上に対する教員の意識を高めるようにしていく。 ②進路ガイダンスを活用し、担任教員が生徒に進路の話をできるようにする。 【中等部】 ①②進路ガイダンス・学習ガイダンスなどで生徒・教員・保護者と連携して、中等部における学習習慣を定着させ、目標を持って学習するよう促す。 【高等部】 ①国際教養コースの生徒の学習習慣を定着させ、学力につなげる。 ②総合型選抜、学校推薦型選抜受験者での上位大学合格も増えており、生徒が目標設定を高く持ち、受験に取り組むようにする。
【中等部】 資料	【資料5-2】 模擬試験 【資料5-3】 卒業生進学先
【高等部】 資料	【資料5-2】 模擬試験 【資料5-3】 大学合格先 【資料5-4】 大学合格者受験方法 【資料5-5】 短期大学合格先 【資料5-6】 短期大学合格者受験方法 【資料5-7】 併設大学進学者数 【資料5-8】 卒業生進学先
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学習時間記録の活用で生徒の学習習慣の定着を図る。模擬試験分析会を活用し、教員の学習に対する意識を高め、生徒への指導につなげていく。 ②生徒が目標を持って学習できるよう進路ガイダンスを工夫し、進路指導委員会の活動を活発化させ、学力向上に努める。 【中等部】 ①中等部低学年での学習習慣を定着させ、成績を向上させる。 ②進路ガイダンス・学習ガイダンスの効果を高める。 【高等部】 ①国際教養コースの学習習慣の定着を図り、成績を向上させる ②進路ガイダンスなどを通じて、生徒の大学受験に対する意識を高める。

6. 研修・研究

6-①	・全教員による授業研究会を行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に中等部・高等部全体で取り組んでいるか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①研究研修プランで授業研究の基本方針を共有する。 ②教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法や教材・教具等を共有する。 ③教科指導の技術を学び合うために、相互に授業を参観する公開授業週間を引き続き開催する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①研究研修プランをもとに生徒の学力向上に向けた授業方針を教員間で共有した。 ②教科会において、教材や授業方法等の情報共有に取り組んだ。 ③年に2回、公開授業週間を設定し、教員が相互に授業参観を行うことで、言語コミュニケーション・スキルや、表情や身振りなどの非言語コミュニケーション・スキルの指導技術の共有を図った。			
今後の課題	【中・高共通】 ①授業研究に取り組むための基本方針の共有と組織的な取り組みを必要とする。 ②資料分析型の教員研修だけでなく、授業力向上のための実践的な研修会を充実させる。 ③様々な教科で通用する指導技術を共有するために、多様な教科の授業を相互に参観できるようにする。			
【中等部】 資料	【資料6-1】 授業研究（授業公開）			
【高等部】 資料	【資料6-1】 授業研究（授業公開）			
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①授業研究の基本方針を共有し、組織的に取り組む。 ②教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法や教材・教具等を共有する。 ③教科指導の技術を学び合うために、相互に授業を参観できる公開授業週間を引き続き開催する。			

6-②	・校内研修・校外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①エピペン講習会と心肺蘇生法講習会の日程を調整する。			

	②学校生活満足度アンケートの結果を活用した学級運営講習会を企画・運営する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①エピペン講習会、心肺蘇生法講習会は、保健室主導で、予定どおり実施された。 ②学校生活満足度アンケートの結果を職員間で共有し、心配のある生徒には二者面談での声掛けをはじめ、あらゆる教育場面において活用した。
今後の課題	【中・高共通】 ①エピペン講習会や心肺蘇生法講習会に全教職員が参加できるよう、保健センターと日程調整する。 ②学校生活満足度アンケートの結果を活用し、様々な教育場面に生かす。
【中等部】 資料	【資料6-2】 研修
【高等部】 資料	【資料6-2】 研修
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①エピペン講習会と心肺蘇生法講習会の日程を調整する。 ②学校生活満足度アンケートの結果を活用する。 ③校外研修における情報共有を行う。

6-③	・部長（校長）等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①教員の授業力向上のために、管理職は常に教員の授業を参観し、授業改善のアドバイスを行う。 ②教員の指導力向上のために、管理職は計画的に研修資料の提示や指導を行う。 ③不祥事防止のために、管理職は全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①年に2回「公開授業」を設定し、教員が相互に授業参観を行った。どの教科にも共通する言語コミュニケーション・スキルや、非言語コミュニケーション・ス

する取組内容と成果)	キルなどの指導技術を視点として授業参観を行うことにしたため、他の教科の授業を参観しやすくなった。 ②研究研修プランに基づき授業研究の方針を共有することができた。 ③情報セキュリティについての研修資料を紹介した。
今後の課題	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着と「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業研究に取り組むための方針の共有が必要である。 ②授業力を向上させる組織的な取り組みが必要である。 ③どの教科にも応用できる指導技術を共有するためには、様々な教科の授業を参観できるようにする。
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①教員の授業力向上のために、管理職は常に教員の授業を参観し、授業改善のアドバイスを行う。 ②教員の指導力向上のために、管理職は計画的に研修の実施や資料の提示、指導を行う。 ③不祥事防止のために、管理職は全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。

7. 保護者・地域社会等との連携

7-①	・保護者が中等部・高等部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①体育祭、みどり祭などの学校行事への参加を呼びかけ、多くの保護者が来校した。 ②校務分担一覧に保護者との連携・協働の担当者として次長が担当し、保護者との窓口を明確にしている。
今後の課題	【中・高共通】 ①保護者有志による学校行事の参加について、令和6（2024）年度は実施の方向で検討する。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。

7-②	・学校公開を定期的実施しているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を120名以上にする。 ②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）の3行事を保護者に公開する。 ③保護者へ学習の機会を提供するために、校内で立居振舞講座等の開催を検討する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	【中・高共通】 ①予定どおり実施できた。また、参観者数についても6月は189名、11月は114名で合計303名が参加し、参加者数を120名以上にすることができた。 ②3行事共に、特別な制限を設けずに保護者にご来校いただき、生徒の様子を見ていただくことができた。

	③クラス数の増加で時間の割り振りが難しいため、保護者対象の立居振舞講座は実施しなかった。
今後の課題	【中・高共通】 ①生徒や来校する保護者の十分な感染症対策を取りながら実施する。 ②状況を適切に判断し、必要な対応を施しながら各行事の公開方法を判断する。 ③共学化して安定するまでは、実施困難と考える。
【中等部】資料	【資料7-1】学校公開 【資料7-2】保護者講座
【高等部】資料	【資料7-1】学校公開 【資料7-2】保護者講座
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を150名以上にする。 ②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）の3行事を保護者に公開する。

7-③	・生徒・保護者の中等部・高等部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、保護者との連絡を密に行う。また、保護者会、三者面談、校友会保護者会を適宜実施する。 ②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるように、アンケートを実施し、その内容に応じて二者面談を行う。 ③教育相談委員会を月例で実施することで、各学年の課題を学年、スクールカウンセラー、保健室で共有、連携して組織的、計画的に活動する。 ④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を、1学期中を目標に実施する。
【中等部】達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①担任から保護者への連絡を密に行い、十分なコミュニケーションを取るようにした。保護者会は各学年2回実施した。三者面談は全員に対して年2回実施し、必要な生徒には、加えて各学期末に面談を行った。校友会保護者会は、部活動の活動状況に応じて実施した。 ②学校生活アンケートを各学期末の年3回実施し、その内容や分析結果をもとに指導を行った。 ③年8回教育相談委員会を実施し、学年内の生徒情報を共有し、必要に応じて課題

	解決の提案を行った。 ④中等部1年生と高等部1年生全員の面談を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ①保護者会は必要に応じて懇談会形式で行うことも検討し、保護者間の情報共有を進める。三者面談は、必要に応じて教員と保護者の二者で行う場面を設けることも検討する。 ②学校生活アンケートに加えて、「Hyper-QU」を実施し、生徒の学校生活への満足度等を計る。アンケートの活用方法について、職員に周知する機会を設ける。 ③迅速な対応を必要とする内容の、素早い共有を考える。 ④入学後、可能な限り早い時期に実施するようにする。
【中等部】資料	【資料7-3】保護者会・面談
【高等部】資料	【資料7-3】保護者会・面談
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、保護者との連絡を密に行う。また、保護者会、三者面談、校友会保護者会を適宜実施する。 ②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるようにアンケートを実施し、学級運営に生かすとともにその内容に応じて二者面談を行う。 ③教育相談委員会を月例で実施することで、各学年の課題を学年、スクールカウンセラー、保健室で共有、連携して組織的、計画的に活動する。 ④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を実施する。

7-④	・学校便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。			
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）を併用した学校広報活動に取り組む。 ②保護者会の関心を高め、参加率を向上させる。 ③生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕の掲示を行う。			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の	【中・高共通】			

理由 (目標に対する取組内容と成果)	①②保護者会については、中等部1年生～高等部2年生までは年間で3回、高等部3年生は年間で2回実施することができた。また、印刷物や「Classi」を適宜活用し、保護者との情報共有につなげることができた ③業者に依頼し横断幕の掲示ができた。
今後の課題	【中・高共通】 ①②保護者に学校の様子や行事の実施についての理解を深めるために、引き続き保護者会や印刷物、「Classi」を活用する。 ③適正な価格と納期で発注できるよう計画的に実施する。
【中等部】 資料	【資料7-4】保護者への情報発信
【高等部】 資料	【資料7-4】保護者への情報発信
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①保護者に学校の様子や行事の実施についての理解を深めるため、保護者会や各種説明会等を中等部1年生～高等部2年生では年3回、高等部3年生では年2回開催する。また、保護者会の内容について情報共有を図るため、印刷物や「Classi」を効果的に活用する。 ②生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕の掲示を行う。

7-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①行政や地域のNPOとの連携を深め、地域の自然、文化財、SDGsの取り組みについて、継続した学習に取り組み、深化させる。 【中等部】 ①ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムの一環として、1年生は鎌倉の自然保護、2年生は文化財保護、3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。 ②ESDプログラムの一環として、2年生は本郷台にある県立地球市民かながわプラザ体験学習を実施する。 【高等部】 ①ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムの一環として、鎌倉市の協力を得ながら、鎌倉の観光の課題を解決するための課題解決学習を実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標対	【中・高共通】 ①鎌倉の自然、文化財、観光、SDGsの学習において、鎌倉市役所や鎌倉ユネスコ協会の協力を得て、連携することができた。

する取組内容と成果)	【中等部】 ①1年生は由比ヶ浜海岸でビーチコーミングを行い、海の豊かさや環境について学習した。2年生は、鎌倉国宝館で文化財を取り扱う体験を行った。3年生は、鎌倉の課題についてまとめ、鎌倉こども議会に参加し、発表を行った。 ②2年生は県立地球市民かながわプラザで体験学習を行った。 【高等部】 ①1年生の3学期から、鎌倉の観光をテーマに課題解決学習に取り組んだ。鎌倉市観光課の職員を招聘し、鎌倉市の観光の課題についての講演を行った。2年生では、引き続きグループごとに課題解決学習に取り組み、学年で発表会を行い、鎌倉市の職員も参観した。
今後の課題	【中・高共通】 ①行政や地域のNPOとより一層連携を深め、地域をテーマとした学習を深化させる。 【中等部】 ①②感染防止に配慮しながら体験学習を実施する。 【高等部】 ①鎌倉の観光をテーマに1年生3学期から始めた課題解決学習は、2年生でも引き続き取り組み、鎌倉市の自然や文化財保護などを含む観光の課題についての学習を続ける。
【中等部】 資料	【資料7-5】 地域との連携・交流
【高等部】 資料	【資料7-5】 地域との連携・交流
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①行政や地域のNPOとの連携を深め、地域の自然、文化財、SDGsの取り組みについて、継続した学習に取り組み、深化させる。 【中等部】 ①ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムの一環として、1年生は鎌倉の自然保護、2年生は文化財の保護、3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。 ②ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムの一環として、2年生は本郷台にある県立地球市民かながわプラザで体験学習を実施する。 【高等部】 ①ESD（持続可能な開発のための教育）プログラムの一環として、鎌倉市の協力を得ながら、鎌倉の観光の課題を解決するために課題解決学習を実施する。

8. 経営基盤

8-①	・部長（校長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るように努める。 ②組織的・計画的な教育活動や学校運営を実現するために、管理職は主任等を指導・支援する。 ③学校マネジメントを推進するために、マネジメントに関する教職員の知識やスキルを向上させる。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①部長（校長）は教職員と面接をするなどし、一人ひとりの教員とコミュニケーションをとるように努めた。 ②教職員に対して、運営組織図をもとに業務内容と権限を明確にしたため、より組織的に取り組めるようになった。 ③学校教育と学校運営の重点取組をまとめ、その下に実施計画等を作成し、実行した。評価・改善にも取り組み、学校全体のPDCAマネジメントサイクルを構築した。
今後の課題	【中・高共通】 ①教職員が情報交換や相談をしやすくする環境を整える。 ②運営会議において、学校の10の重点取組分野を提示・理解させる。 ③学校マネジメントに関する、教職員全体の知識やスキルの向上を図る。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①管理職は教職員とコミュニケーションを取るように努める。 ②組織的・計画的な教育活動を実現するために、管理職は主任等を指導・支援する。 ③学校マネジメントを推進するために、マネジメントに関する教職員の知識やスキルを向上させる。

8-②	・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①校務分掌や学年の主任をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。 ②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校

	務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。 ③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①校務分担一覧の作成により、各主任が業務内容を把握できるようになった。 ②運営会議に担当窓口制度を設定しているため、各組織での計画や取り組みについての役割分担が明確になった。 ③職員会議の前の時間に何度か模擬試験の検討会が入っていたものの、効率的な職員会議を実施することができた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①ミドルリーダーとして位置付けた校内組織の運用を徹底する。 ②校務委員会の主任は基幹教員として、理解し合う機会を持つ必要がある。 ③職員会議の効率化のため、議題を事前に提示する。			
【中等部】 資料	【資料8-1】 運営組織図 【資料8-3】 教科主任・教科担当 【資料8-5】 校務委員会と担当者会		【資料8-2】 各分掌の所管事項 【資料8-4】 学年所属教員 【資料8-6】 特別委員会	
【高等部】 資料	【資料8-1】 運営組織図 【資料8-3】 教科主任・教科担当 【資料8-5】 校務委員会と分掌部会		【資料8-2】 各分掌の所管事項 【資料8-4】 学年主任・学級担任 【資料8-6】 特別委員会	
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①校務分掌主任をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。 ②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。 ③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。			

8-③	・各種文書や個人情報などの中等部・高等部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から受け取る。 ②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実に行う。

【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①新入生には入学手続き時に個人情報の取り扱いについての同意書を配付し、全員の保護者から提出された。また、ホームページや学校案内に生徒の写真が掲載される場合には、広報委員会から別途、生徒・保護者の同意を得るようにし、本人が特定されないなどの配慮を行った。 ②生徒の個人情報の一切は、教務委員会で一元管理している。個人所有の情報機器の使用禁止並びに、デジタルデータの持ち出しを禁止することで個人情報の流出防止に努めた。学校備付表簿は、学校教育法施行規則第28条により定められた保存期間を遵守し、保存期間が過ぎたものは適切な方法で廃棄している。			
今後の課題	【中・高共通】 ①個人情報などの中高等部が保有する情報の取り扱いについて及び、教職員が使用しているタブレット等のICT機器の取り扱いについて、新しく着任した教職員に周知徹底する。 ②紙媒体の個人情報と、デジタル媒体における個人情報について、破棄を確実にを行う。			
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から提出してもらう。 ①個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実にを行う。			

8－④	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。			
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①理科について、化学室と生物室では実験・観察を中心に、物理では、机の配置を生かした座学など、各実験室を有効に活用する。 ②各教室に設置された電子黒板や生徒が所持しているタブレット等のICT機器を活用した授業を行う。 ③ラーニングコモンズ等の有効活用を推進するため、新校舎運営員会で組織的に取り組む。			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①理科について、化学室と生物室では実験・観察を中心に、各実験室を有効に活用することができた。			

する取組内容と成果)	②各授業において有効に活用することができ、学習内容の理解へとつなげた。 ③国語科では、アクティブラーニングの活動で「ビブリオバトル」や「ポスターセッション」を、LHR・総合学習の時間等では「SDGsプログラム」「人権学習プログラム」のグループワークの会場として利用した。
今後の課題	【中・高共通】 ①理科について、新実験室では、実験器具類の経年劣化による安全性に留意しており、順次更新している。 ②教員用タブレットの経年劣化が見られるため、順次更新する。 ③ラーニングコモンズの活用方法について検討する。
【中等部】資料	【資料8-7】施設・設備
【高等部】資料	【資料8-7】施設・設備
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ①理科について、化学室と生物室では実験・観察を中心に、物理では、机の配置を生かした座学など、各実験室を有効に活用する。 ②各教室に設置された電子黒板や、生徒所持のタブレット等のICT機器を活用した授業を進める。 ③ラーニングコモンズ等の有効活用を推進する。

8-⑤	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。			
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。 ・業者委託業務による計画的な環境整備。			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・職員の日常作業の他、消防設備、清掃業務、樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等を行った。 ・建物管理業務を令和3(2021)年8月から業者委託し、より快適な環境整備を行った。 ・改修工事において、工事エリアを仮囲いで区画し、生徒の安全を確保した。 ・松本講堂において、屋外手摺に経年による錆、腐食、爆裂等の劣化がみられるため、補修、塗装、シーリング工事を行った。また講堂内調光盤DC電源及び基板調整工事を行った。 ・プール棟において、プール保守点検の他、良好な維持管理のため、給湯用膨張			

	タンク更新、ろ過装置空気シリンダー弁更新、可動床固定柱座交換・浮力体追加工事等を行った。 ・新グラウンド駐車場において、安全管理のため監視カメラ設置工事を行った。 ・台風等災害被害の安全対策工事として、中高校舎鎌倉街道沿い枯木伐採、テニスコート南側高木剪定、北側法面高木強剪定工事を行った。 ・衛生管理の強化（新型コロナウイルス感染症等の予防を含む）のため、生徒が担当していたトイレ清掃を令和2（2020）年から業者委託とした。 ・設備機器の不具合への対応を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容を実情と比較し見直しを図る。
2024年度の取組目標	【中・高共通】 ・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。 ・業者委託業務による計画的な環境整備。

8－⑥	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。			
2023年度の取組目標	【中・高共通】 ①学習指導要領の年次進行改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。 ②電子黒板やタブレット、パソコン等のICT機器を授業で積極的に活用できるよう、活用方法の共有や蓄積を行う。			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ①授業で必要となる教材等を計画的に準備し、整備することができた。 また、転入生の教科書を、滞りなく準備した。 ②電子黒板やタブレット、パソコンを活用した授業を展開できた。			
今後の課題	【中・高共通】 ①必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。 ②全教員が活用できるように、技術を共有する場を増やす。			
【中等部】資料	【資料8-8】図書室蔵書数・視聴覚資料数		【資料8-9】図書閲覧室等	
【高等部】資料	【資料8-8】図書室蔵書数・視聴覚資料数		【資料8-9】図書閲覧室等	
	【資料8-10】図書室利用			

2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①学習指導要領の年次進行改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。 ②電子黒板やタブレット、パソコン等のICT機器を授業で積極的に活用できるよう、活用方法の共有や蓄積を行う。
-----------------	--

8-⑦	・ 中等部・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 【高等部】 ・ 就学支援金等補助金に伴う受付申請業務を遅滞なく正確に行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ・ 窓口での来校者対応や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 預り金については、各学年の担当者と連携し適正に管理が行われた。 ・ コロナ禍が明けてのみどり祭において、飲食業者手配等が滞りなく行われた。 【高等部】 ・ 就学支援金等補助金における事務については、神奈川県の手続き要項等に則り、受付申請業務を遅滞なく正確に行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・ 今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 令和6（2024）年度より副教材費等の徴収を口座振替に変更する計画である。事務が問題なく行われる様準備を行いたい。 【高等部】 ・ 就学支援金等の補助金事務については、担当者の制度の理解深耕、複数名での確認作業の徹底、部門管理者の適切な管理を更に強固に推進したい。
【中等部】 資料	【資料8-11】 授業料等校納金 【資料8-12】 生徒一人当たり年間納付金 【資料8-13】 学費軽減制度
【高等部】 資料	【資料8-11】 授業料等校納金 【資料8-12】 生徒一人当たり年間納付金 【資料8-13】 学費軽減制度
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ・ 引き続き日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。 ・ 1年生より導入する副教材費等の口座振替業務を適切に行う。 【高等部】 ・ 就学支援金等補助金に伴う受付申請業務を遅滞なく正確に行う。

9. 自己点検・評価

9-①	・自己点検・評価が年に1回以上定期的に、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
2023年度の 取組目標	【中・高共通】 ①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。 ②自己点検・評価の結果を学校の教育活動・学校運営に反映させるために、すべての校務委員会、担当者会は評価指標と目標を適切に設定する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成 B：概ね達成 C：やや未達成 D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ①「学校評価プラン」に基づき、学校評価委員会が「自己点検・評価報告書作成計画」を策定して、組織的・計画的に取り組んだ。 ②前年度の相互評価の指摘事項を全教職員で共有し、各項目の担当部署を明確にし、各委員会、各担当者会は評価指標に基づいて自己評価した。
今後の課題	【中・高共通】 ①学校評価委員会は「自己点検・評価報告書作成計画」を早めに策定、全教職員に周知し、改善を図る。 ②全ての校務委員会、担当者会は本年度設定した評価指標と目標が適切であったかを検討し、評価指標と目標を改善する。
2024年度の 取組目標	【中・高共通】 ①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。 ②自己点検・評価の結果を学校の教育活動・学校運営に反映させるために、すべての校務委員会、担当者会は評価指標と目標を適切に設定する。